

## 高齢者介護サービス事業所の新型コロナウイルスへの対応等に関するWEB調査の結果(概要)

### 調査概要

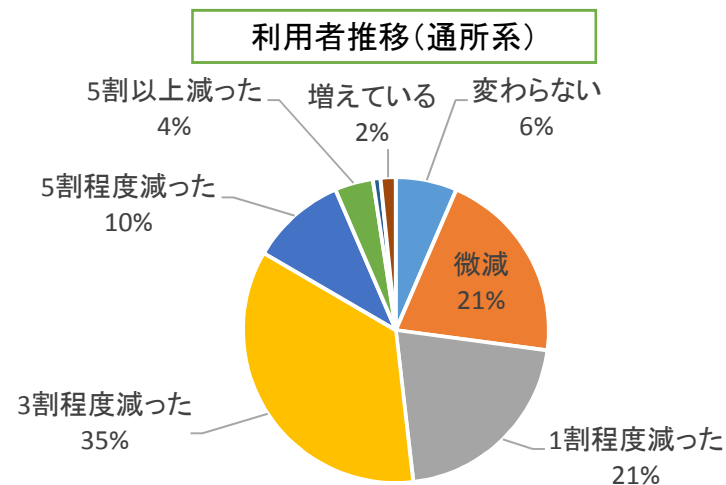
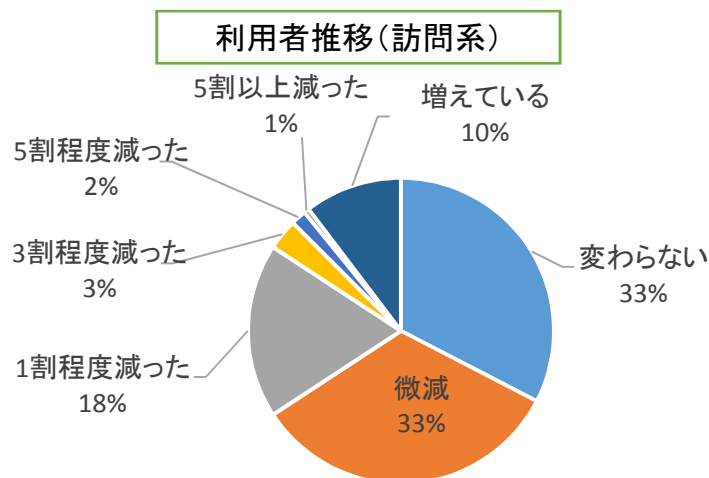
市内の居宅介護事業所を中心にWEBアンケートを実施

実施期間：令和2年4月17日～4月24日

回答数：499件 回答率40.2%(499事業所/1242事業所) ※みなし訪問看護事業所は含まず

### 主な回答傾向

- 回答した事業所の9割近くが「通常どおり運営している」を選択しており現時点でのサービス休止は限定的
- 3月以降の利用人数は、訪問系の約8割が「増えている」「変化なし」「微減」を選択している一方で、通所系では約7割が1割以上減少していると回答(下図参照)
- 臨時休業又は事業を一部縮小している理由として、約7割が「利用者・職員の感染リスクを避けるため」と回答
- 事業所の対策としては、「国・県・市からの情報を収集して、職員に周知している」「職場での感染防止の対策を定め、職員に周知している」が約9割、「感染者が発生した際の連絡体制を定めている」が約7割
- 不安を感じていることとしては、約7割弱の事業所が「サービス提供にあたる職員が不安を抱えている、動揺している」を選択



## 自由記載概要

※現在、事業所において懸念していることや、今後、対応を検討していること(主な意見を抜粋、同種意見が多い場合は集約)  
(共通項目)

- 利用者・家族又は職員に感染者、濃厚接触者、感染疑い、体調不良者が出た場合の対応
- 感染者や濃厚接触者、体調不良で休んだ職員の職場復帰の判断
- 利用者、家族の意向による利用自粛
- 利用者減にともなう収入減。それにともなう雇用確保不安
- 子育て中のスタッフのことも配慮しないといけないので色々な面で大変困っている
- 皆がナーバスになっており、メンタルヘルスケアが必要
- アルコール消毒、アルコール綿、防護マスク、PVCグローブ等の衛生用品が不足している

(訪問系)

- 体調不良で休んだヘルパーを不安なお客様が受け入れてもらえるかが心配
- お客さまの体調不良が原因でサービスに入れない
- 通所や短期入所をキャンセルした利用者のサービス回数が少しずつ増えており、今後対応しきれなくなる可能性がある
- 高齢のスタッフや電車バス移動のスタッフは仕事を受けてくれないケースがある。動けるスタッフに仕事が集中して疲弊
- 在宅で利用者の家族に新型コロナウイルスに感染している可能性が出た場合、その後の介護を誰が担うのか課題

(通所系)

- 密接、密集、密閉の回避が行いづらい、利用者さまが高齢で基礎疾患を有しているので重篤化する懸念がある
- 職員に関しても感染懸念があること。開所してほしいという要望は多いが、事業所の環境が3密に近く感染リスクが高い
- 自粛要請が長期化した場合、持病等により利用控えをされている方のADL低下が心配。要望があれば電話安否確認サービス等の導入を検討したいが、サービス導入の承諾書作成や人員確保が出来るかが不安。
- 施設の特性上クラスターへの懸念、常に張り詰めた状況での生活
- 特養との併設なのでデイサービスが感染源にならないか不安